

中学校国語科における「読むこと」「書くこと」の授業

川北 晋子

1 はじめに

香川県の中学校の教員になって三年目。幸運にも一、二、三と持ち上がることで、現在は中学三年生の担任をしている。年々、学校には慣れてきたものの、初めての三年生の担任ということで、分からないこともまだまだ多くある。授業づくりにおいても、日々「この教材を使って、何ができるだろう」と悩んでいる。めまぐるしく過ぎていく毎日の中で、なかなか先を見通した授業を構成することができていないが、一つ一つの単元（または授業）の中で工夫してきたことをこの機にまとめてみようと思った。本稿では、昨年（二年生担任時）に中学二年生で実施した授業について報告したい。

2 学習者の実態

2-1 調査等による実態把握から

学習者の実態を把握するために、まず香川県教育委員会が、小・

中学生を対象に毎年実施している学習状況調査¹の結果を確認してきた。

平成二六年の調査の結果、本校の二年生は全体的には県の平均点を上回っていたものの、領域別に詳しく分析すると次のような課題が見られた。

聞き取りテストの結果から、「話すこと・聞くこと」の領域では、必要な情報とそうでない情報とを区別し、話の重要なポイント聞き取ることに課題が見られた。

「読むこと」の領域では、本文に書かれている内容を読み取ることはおおむねできていた。しかし、「文章の特徴」について問われた問題の正答率が他の問と比較すると特に低く、筆者（または作者）の表現の工夫や文章構成の工夫などを理解することに課題が見られた。また、文学的文章においては、登場人物の心情の変化を捉えることにも課題があった。

「書くこと」の領域では、学年全体の正答率は高いものの、空欄である生徒や字数が条件を満たしていない生徒が見られた。

このような課題の分析を踏まえ、今後の国語科の対策として次の

四点を考えた。

①「話すこと・聞くこと」の領域においては、聞き取りテストを普段の授業にも定期的に取り入れ、聞き取った情報を簡条書きで簡潔にメモするなどのテクニクを習得させながら繰り返し指導すること。

②「読むこと」の領域においては、本文に書かれている内容を読み取っていくことを基本としながら、「文章の特徴」（表現の工夫・構成の工夫など）にも気づかせ、それについて自分の考えをもつ（批評するなど）活動を取り入れること。

③文学的文章を読む際には、登場人物の心情の変化を会話や行動などから読み取る活動に重点を置くこと。

④各単元のまとめの活動に積極的に書く活動を取り入れること。
書く活動においては「ヒント」や「枠組み」を提示し、書くことに対する抵抗感を軽減するとともに、それらをこれからの作文活動に生かすように指導すること。

なお本稿では、②と④に重点をおいた実践について報告する。

2-2 学校生活や授業の状態から

本学年の生徒たちは、素直で自分の気持ちを正直に表現する。それはよい面でもあるが、発言を注意深く聞くと、自らの気持ちを適切に表現するための語彙が少ないことがよく分かる。自分の気持ちを適切に表現できないことで、彼らのささいな発言が友だちを傷つけ、

トラブルになることも少なくない。

また、毎日の日記（生活記録）の記述や行事の感想文などを読むと、文章が極端に短かったり、「おもしろかった」や「すきかった」などのありきたりな形容詞で自分の気持ちを表現したりする生徒が多く見られる。

さらに、国語の授業での書く活動への取り組み方を見ると、自分の考えをどのように書き表したらよいのか分からず、書き始めにつまずいたり、文章をどのようにつなげたらよいのか分からず途中で書くのをやめたりする様子も見られる。

3 授業構想とねらい

以上のような調査結果や学習者の実態から、以下のような授業を構想し実施しようと考えた。

説明的文章で、「文章の特徴」（表現の工夫・構成の工夫など）を理解し、それらについての自分の考えをもつ授業

本実践では、文章の構成や展開、表現の仕方について、自分の考えをもつ（評価する・吟味する）ことをねらいとする。また、気づいた表現の工夫を生徒の作文活動につなげるようにしたい。

なお、書く活動を取り入れる際には、「枠組み」や「ヒント」を提示し、生徒の考えをまとめやすくするとともに、それらを今後の作文活動にもいかすようにさせたい。

4 実践について

学年・学級 高松市立香東中学校 二年生三クラス

実施時期 一一月頃

単元名 「説明文の内容や書き方に対して自分の考えをもつ」

教材 安田喜憲『モアイは語る―地球の未来』

(光村図書『国語 二』)

4-1 単元設定のねらい

『モアイは語る―地球の未来』は、有名なモアイ像の話題が生徒たちの興味をひきつける教材である。実際に、本単元に入る前から、題名に惹かれたのか「先生早くモアイ読もうよ。」という発言が多く聞かれた。内容面に興味をもつことができ、生徒たちが意欲的に取り組むことができる教材であれば、内容の読み取りだけに留まらず、「文章の特徴」にも気づかせることができるのではないかと考えた。また本教材の論の展開について岸本は、「本文」は、環境考古学者である筆者が、モアイの謎を順に追って説明していく課程に沿って書かれており、思考の過程が論理的で明快な文章である。」と述べている。そこで、「問い」と「答え」、「解明した方法」という関係を使って内容を整理させていけば、生徒たちに論の展開という「文章の特徴」にも気づかせることができると考えた。

さらに岸本は、「まとめ」の部分で、筆者は、未来の地球の異常な人口爆発は、イースター島がたどった道と同じようであると、地

球環境や文明崩壊の危機に警鐘を投げかけているが、「導入」・「本文」とモアイ像を中心に読み進めてきた生徒にとっては述べ方にやや唐突な感じがあり、補足説明があればもと納得できるのではないか。」という問題点も指摘しており、筆者の説明の仕方について意見をもつことができる（評価することができる）のではないかと考えた。

このようなことから、本単元では内容を丁寧に読んで、論の展開を捉えさせるとともに、「文章の特徴」について自分の考えを表現させることをねらいとした。

なお、自分の考えを表現させる活動（書く活動）では、文章の書き出しや文章のつなぎ方につまずかないように「ヒント」を提示し、書くことへの抵抗感を減らし、しっかりと自分の考えをまとめられるようにした。

4-2 単元の目標

- ・課題意識をもち、進んで教材を読もうとしている。
- （国語への関心・意欲・態度）
- ・文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをまとめることができる。
- 【C読むこと ウ】
- ・自分の立場や考えを、根拠を明確にして書くことができる。
- 【B書くこと イ】
- ・相手や目的によって、文章の書き方に違いがあることを理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)】

4-3 単元の計画

一時間目 ①学習の流れと目標を確認する。

(学習の流れプリント)⁵

②本文を読み、発見したことや疑問に思うことを抜き出す。

③本文の構成をとらえる。

二時間目 ①序論を読み、内容を表にまとめる。

②本論を読み、内容を「問い」・「解明した方法」・「答え」の関係をつかって表にまとめる。

③筆者の説明の仕方や文章の書き方、考え方などについて気づいたことをまとめる。

三時間目 ①本論の内容をグラフにし、全体を振り返る。

②グラフにすることによって気づいたことをまとめる。

四時間目 ①結論を読み、イースター島と地球の共通点をまとめる。

②筆者の主張をまとめる。

③本文の内容や書き方に対する自分の意見を書く。

4-4 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	国語についての知識・理解・技能
①進んで教材を読み、自らの考えをもととして	①筆者の主張(伝えたいこと)を本文の内容に即して、まとめることができる。	①「問い」と「答え」の関係を使って、本論の内容を整理することができる。	①相手や目的により、文章の展開や構成に違いがあることを理解することができる。
	②文章の内容や書き方に対する自分の考えをまとめることができる。	②本論から筆者の「書き方の特徴」を読み取ることができる。	
		③本論の内容をグラフに整理することができる。	

4-5 授業の実際

本単元の開始前から教材に興味をもっていたことから、生徒たちはどの時間も意欲的に取り組んでいた。

一時間目は、本文の内容を予測させたくて本文を通読し、「発見したこと」や「疑問に思うこと」を本文中から抜き出してワークシート①に書かせた。また、「見出し」を提示して本文を三つのまとめ(序論・本論・結論)に分けさせた。そして、本論をさらに四つのまとめに分けさせた。

二時間目は、「問い」(問題提起)と「答え」(問題の解明)の関係を使って本論の内容を整理する活動を行った。(ワークシート②・資料1)

資料1

單元「国語文の読み方や書き方」について自分の考えをもち

二時、一組

① 問題 既読と本論の内容を整理する活動を行った。

答えとして、本時での「問い」(問題提起)と「答え」(問題の解明)の関係をまよりに整理してみよう。

問題	既読	本論	問題の解明
① 既読と本論の内容を整理する活動を行った。	既読した内容を整理する	本論の内容を整理する	問題の解明を行う

① 既読と本論の内容を整理する活動を行った。	既読した内容を整理する	本論の内容を整理する	問題の解明を行う
② 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析
③ モアイの彫刻の巨像と作られた	モアイの彫刻の巨像と作られた	モアイの彫刻の巨像と作られた	モアイの彫刻の巨像と作られた
④ モアイの彫刻の巨像と作られた	モアイの彫刻の巨像と作られた	モアイの彫刻の巨像と作られた	モアイの彫刻の巨像と作られた
⑤ 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析
⑥ 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析
⑦ 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析
⑧ 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析
⑨ 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析
⑩ 花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析	花粉の化石の分析

既読と本論の内容を整理する活動を行った。答えとして、本時での「問い」(問題提起)と「答え」(問題の解明)の関係をまよりに整理してみよう。

「問い」と「答え」の関係を使って本文を読みとっていく学習活動は今まででも行ってきたので、本文からすぐに抜き出すことができていた。また、「問い」と「答え」を見つけたあとに、この二つをつなぐ「解明した方法」を本文中からみつけさせた。本文を繰り返し読みながら、多くの生徒が内容を表に整理することができていた。これらの活動を行った後、生徒たちに「筆者の説明のしかたや文章の書き方、考え方で気づいたことをまとめよう」という課題を提示した。(ワークシート②) ワークシートの記述を見ると、まず、「問い」について触れている生徒が多く見られた。「問いが多い」ということに対して、「次々と読みたくなる」や「自分が考えたこともない問いが多く、気づかなかった問いにも気づけた」といった肯定的な意見をもつ生徒がほとんどだった。(ごくわずかではあるが、「いろいろな問いが多いので読みにくい」(問いどうしの関係がよくわからない)といった意見も見られた。)また、「問い」と「答え」の関係の間に「解明した方法」があることについては、「納得しながら読むことができる」や「解明した方法がなければ、何か飛ばして答えを聞いたような感じがする」といった意見が見られた。筆者が実際に検証した事実(「解明の方法」)を書くことによって、説得力のある文章になっているという「文章の特徴」について気づくことができているといえる。さらに、「解明した方法」について授業中に、次のような指摘をする生徒がいた。⑬段落に書かれている「ではモアイを作った文明はいつだったのだろうか。」という問いに対する「解明した方法」がはつきりとは書かれておらず、⑨段落の「堆積物の中に含まれている花粉の化石を分析してみた」という「解明の方法」

から筆者が文明が崩壊した過程を推測しているのではないかというのである。そのことについて、「今までとはあえて同じようにはせず、考えさせることで興味がわくようになっていく」といった肯定的な意見もあれば、「説明が足りない。ほかに何の調査や書物を読んで調べたことを補足するべき」といった意見も見られ、筆者の書き方に対する自分の考えをもつてきていると感じられた。これらの意見は、プリントにして配布し、五時間目の「筆者の書き方に対する自分の意見を書く活動」に生かすようにさせた。

三時間目は、本論全体を振り返る活動として、「イースター島の人口の推移をグラフに表し、島の歴史や島民の生活の様子を書き込もう」という活動を行った。(ワークシート③・資料2)

生徒たちは人口の急激な変化を視覚的にとらえることができ、グラフを完成させようとして熱心に取り組んでいた。

四時間目は、まず「イースター島と地球の共通点」をまとめさせた。(資料3) この活動の際も生徒たちから、「最初読んだときはつながりがある感じがしたけど、急に地球の話になった。」や「これもちよつと説明が足りないのかも。」といった意見が聞こえた。次に、筆者の主張をまとめる活動では、プリントの裏にヒントとして書き方例をつけていたこともあり(資料4)、ほとんどの生徒(一〇九名中九一名)が書くことができていた。

五時間目は、本文の内容や筆者の書き方について、自分の考えを書く活動を行った。(ワークシート⑤・資料5)

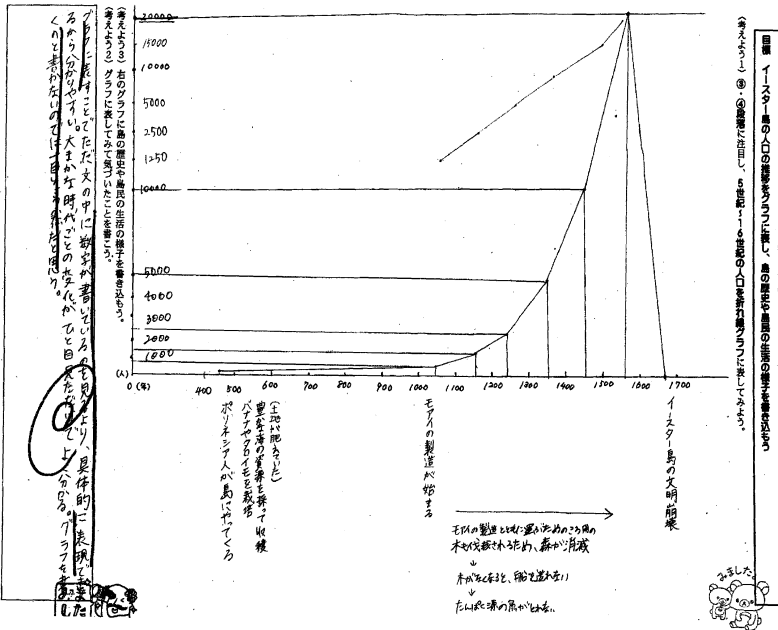
「文章の書き方」についての意見では、二時間目に生徒自身が書いた気づきや意見をまとめたプリントを見ながらまとめることができ

資料2

單元「異文化の理解」の学習や書き方に対して自分の考えをもち

「イースター島」の歴史や島民の生活を調べよう

二 年 一 組



資料 3

單元「歴史の発展と世界の未来」(教科書 地理 1冊) (黒)

目標 経済発展と、世界の未来 (主題) 発展する「日本」の未来

考え出し「1」から「3」まで 目標 ① 経済発展の未来

① 日本は、人口が増加していき、

② 森林資源が枯渇し、食料に逼迫していき、このため食料を運んでくることができなくなる。

③ 日本は、人口が増加していき、森林資源が枯渇し、食料に逼迫していき、このため食料を運んでくることができなくなる。

考え出し「2」の書き出しを修正する。

条件 ・書き出しとして使える文脈を入れる。



① 日本は、人口が増加していき、森林資源が枯渇し、食料に逼迫していき、このため食料を運んでくることができなくなる。

② 日本は、人口が増加していき、森林資源が枯渇し、食料に逼迫していき、このため食料を運んでくることができなくなる。

③ 日本は、人口が増加していき、森林資源が枯渇し、食料に逼迫していき、このため食料を運んでくることができなくなる。

① 日本は、人口が増加していき、森林資源が枯渇し、食料に逼迫していき、このため食料を運んでくることができなくなる。



資料 4

考え出し「2」の書き出し

イースター島では、
という出来事があったのです。

この部分ほどんな出来事があったか教科書を確認
イースター島の歴史(どんな流れ?)をまとめよう

このイースター島での出来事は、私たちにも無関係なわけでは
ありません。
次のような共通点があるのです。

イースター島と地球の共通点をまとめよう

だからみなさんには、

本文の最後に注目！簡潔にまとめよう

(文三)

イースター島の歴史

この島は、1770年にヨーロッパの探検家によって発見された。この島には、数千年前から人類が住んでいたとされている。この島の歴史は、探検家の発見から始まり、ヨーロッパの植民地化を経て、現在に至るまで続いている。

食料を採りに出た、食料が尽きた

この島は、1770年にヨーロッパの探検家によって発見された。この島には、数千年前から人類が住んでいたとされている。この島の歴史は、探検家の発見から始まり、ヨーロッパの植民地化を経て、現在に至るまで続いている。

ていた。また、イースター島と地球の共通点についても触れている生徒も見られた。こちらもプリントの裏に「ヒント」をつけており(資料6)、一〇九名中九〇名が書くことができた。

4—6 成果

本単元の成果としては次の三点が考えられる。

まず一点目は、生徒たちが本文を丁寧に読むことができたということである。もともと内容が生徒たちの興味や関心を引く内容だったのもあるが、活動を通して何度も本文を読みなおす姿が見られた。「問いや答えを見つけたときには、教科書に線を引いていこう」と伝えると多くの生徒が線を引きながら、丁寧に読んでいた。三時間目のイースター島の島民の人口推移をグラフにする活動では、普段国語の授業に集中できない生徒も自分がしっかり本文の内容を読み取らなければならぬので、必死になって読んでいた。(さらに、ヤシの森の減少過程も書き込んでいる生徒も見られた。)全時間を通して様々な書く活動をしながら、丁寧に本文を読むことができたといえる。

二点目は、筆者の書き方の特徴や工夫に気づき、それについて自分の考えをしっかりととてたということである。二時間目の「問い」と「答え」、「解明した方法」という項目で本論を整理させたとき、「解明した方法」が具体的に書かれてあることが分かりやすい」という意見だけでなく、「不十分なところはもっと説明したほうが良い」という意見が出たことには驚かされた。

三点目は、書く活動を行う際に、「書き方」のヒントを提示したこ

とによって、多くの生徒が書ききることができたということである。

5 おわりに

本実践は、生徒たちの中でも特に記憶に残っている単元であったらしく、二年の最後の授業の感想の中で楽しかったものとして多くの生徒が挙げていた。

報告した実践にとどまらず、単元ごとに積極的に書く活動を取り入れているが、表現するための「枠組み」や「ヒント」が適切かということとは、毎回しっかりと考えなければならぬと感じている。表現する「枠組み」を考える際には、「比較」や「原因・結果」などといった生徒の思考の枠組みに合ったものを考えて提示していくことで、生徒のこれからの作文活動に生かすことができるのではないかと考えている。

また、授業数の関係から、自分の表現を推敲して書き直すといった活動が、なかなかできていないという現状がある。作文などを交流した際には評価の観点を提示することで、生徒たちが互いに作品についてアドバイスできるようにし、表現を磨かせていきたい。

三年生となり、一ヶ月に約一回のペースで定期テストや校外テストが行われている。週当たりの国語の時間数も三時間となり、なかなか書く活動を取り入れることが難しい状況ではある。しかし、「書くこと」を積極的に取り入れることで、「読むこと」やさらなる書く活動の充実へと繋げたい。

注

1 平成一四年(二〇〇二年)から毎年実施されている。平成二六年の調査の目的、内容等は以下のとおりである。「調査の目的…児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、児童生徒の理解の程度に基づき個別に応じた指導などを実施する契機とする。

調査の時期…平成二六年一月四日(火)～一月一四日(金)で学校の都合の良い日

調査の対象県内…すべての公立小・中学校 小学校第三学年から

中学校第二学年までのすべての児童生徒

調査の内容…(1)教科に関する調査

小学校第三・四学年国語、算数

小学校第五・六学年国語、社会、算数、理科

中学校第一・二学年国語、社会、数学、理科、英語

語

※出題範囲は前学年までの内容及び平成二六年

四月～九月末までの学習内容

(2)児童生徒質問紙調査

(3)学校質問紙調査 香川県教育センターHPより

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyou/gimn/gakuyoku/>

[kgi/contents/h26.html](http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyou/gimn/gakuyoku/kgi/contents/h26.html)

2 学習状況調査の結果を本校の国語科教員で分析し、対策を考えた。なお、具体的な数値は学校外には公表することができないため、数値から確認される課題とそれに対する対策についてまとめ

たものを報告することとする。

3 岸本勝枝・吉川芳則編著(二〇一〇)『新国語科言語活動の展開がよくわかるシリーズ クリテikalな読解力が身につく! 説明文の論理活用ワーク中学校編』(明治図書、二〇一〇) 岸本勝枝・吉川芳則(二〇一〇) p.50

4 注3、同。

5 単元ごとに(学習の流れ)と目標を書いたプリントを作成し配布している。見通しをもって学習を進めることをねらっている。

また、各時間の始まりにも「学習の流れプリント」を見て、目標や活動を確認している。

参考・引用文献一覧

吉川芳則編著(二〇一〇)『新国語科言語活動の展開がよくわかるシリーズ クリテikalな読解力が身につく! 説明文の論理活用ワーク中学校編』(明治図書)

吉川芳則(二〇一〇)『説明文の学習活動の構成と展開』(漢文社)

吉川芳則(二〇一五)『教室を知的に楽しく! 授業づくり、学級づくりの勘どころ』(三省堂)

府川源一郎・高木まこと/長編の会(二〇〇四)『読解力を育てる「書」の換え」学習—中学校高校編—』(東洋館出版)

香川県中学校教育研究会国語部会 さぬき・東かがわ支部『第二九回 香川県中学校教育研究会国語部会研究大会』

(高松市立香東中学校)